

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572210110		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 茜		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字街道東222-6		
自己評価作成日	平成28年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・広い敷地内には、花壇や畑や沢山の果樹(梅・栗・柿)が植えてあります。今年は、近隣の方が沢山の花を花壇に植えてくださり、華やかになりました。畑も耕してくれ野菜を育てることができ、ジャガイモの収穫期には、他施設の利用者也来られ一緒にいも堀を楽しみました。また、果樹(梅・栗・柿)のもぎ取りも楽しみの一つになっています。  
 ・茜では、外によく出掛けます。春にはお弁当を持ってお花見、秋にはだまご鍋を持って紅葉狩りに全員で出かけます。毎月外出する機会もあり、四季折々の風景や風を感じる機会を大事にしています  
 ・毎年恒例の大運動会も、今年で13回目となりました。家族や地域のボランティアの方々との交流と親睦を深める機会になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開放的な窓からは春夏秋冬、木々や花、遠くの景色まで良く見える。窓の外は遮るものが無く、小学生の登下校の様子等見ることができ、広がる自然の景色や動きを楽しむことができる。開所から13年が経過しており、理念に続くモットーの他、2か月に1回、職員全員で目標を立て、職員の方向性を決めながら支援に活かしている。職員は、法人内で行う研修に参加し、それを内部研修で報告し、情報を共有している。また、法人の事業所がまとまって行う大運動会や行事があり、利用者、家族の他、地域の方も参加している。常に自然な接し方で会話や介助をしており、利用者もゆったりと過ごすことができている。天気を見ながら、散歩に行きたい利用者がいれば職員が付き添い臨機応変に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念は、玄関と事務所に掲示してあり、いつでも確認できるようにしている。また、ホーム独自の Motto があり、それに向け目標を決めて職員一同が取り組んでいる。	理念の他、事業所独自の Motto がある。それを基本に2か月に1回、職員全員で目標を作成し、実践につなげている。また、一日の中で午前午後とも、数時間のレクリエーションを行っており、利用者が笑ったり歌ったり楽しんで過ごせるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	茜便りを年2回作成し、地域の住民に配布してホームでの出来事を報告している。今年は、地域の方より花壇に花を植えてもらい、草取りまでしてもらった。畑もまた、毎年近隣の方から耕してもらい野菜を育てています。	マグカップへの模様付けのボランティアや歌や踊り、カラオケ同好会の披露などがある。法人内の事業所同士、行事の際は行き来している。また、庭の花植えや草むしりなども地域の方が行ってくれる。	開所から14年目に入り、認知症対応型の施設として知識や経験も豊富な施設となった。地域密着型としての事業所の役割を発揮し、地域の方に気軽に相談や訪問に来てもらえるよう、地域に向けた勉強会や行事等を行うなど、さらに事業所へ足を運んでもらうことについて検討されることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で、認知症ケアについての情報を発信している。また、恒例の運動会では、地域の方もボランティアとして参加してもらい認知症利用者を支援してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。常に目標を立てて行事・活動状況に活かしている。また、研修報告等をしている。最後に、助言・要望等を聴き、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議が開かれている。事業所の状況説明や行事、職員が気を付けていることなどを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、かならず担当職員に出席してもらい連絡等を密にしている。	空き状況や入退所の連絡等、電話で連絡を取るようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは、マニュアル等も整備され、職員全員が理解している。常に目に触れる場所に置いてある。夜間以外は、玄関に施錠はしていない。	毎月法人研修があり、事業所からは2名参加している他、身体拘束についても研修している。月に1回のスタッフ会議で全員へ周知されている。また、管理者はいざという時のために、マニュアルを常に見ておくよう職員へ話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会があり、虐待が見過ごされる事の無いように注意をはらい、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度を理解している。また、地域福祉権利擁護を活用している利用者が当ホームには一名います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の際は、家族に十分な説明を行い、署名捺印をもらい理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内数箇所に「意見箱」を設けており、意見があった場合は、職員間で共有し、業務に反映させる。面会時には、普段の状況を説明し、意見、要望等がある場合は、記録し職員に周知している。	日々一緒に過ごす中で利用者の思いを汲み取っている。家族からは請求支払いでの来訪時や面会時に要望や意見を聞いている。行事の写真や茜便りも配布している。管理者・職員は家族が話しやすい雰囲気を作っている。以前、家族アンケートを一度行ったことがあるが、効果を得られなかったことから現在は行っていない。	家族からの意見等、疑問に思っさいなことの解決にもなるため、家族アンケートなどで改めて意見を尋ねることで、より深い家族の思いを得る機会にもつながる。意見を吸い上げやすいよう、少しずつ改良していきながら、継続していくことも可能であると考えられる。意見や思いを聞くために必要かどうかも含め、一度検討されることを期待します。苦情相談窓口福祉サービス相談支援センター(運営適正化委員会)を追加するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催、その時の意見や提案を反映させるよう努めている。ホーム内で解決できない意見や提案は、管理者が議案として管理者会議に提出し意見交換をしている。	外部評価前の自己評価は、管理者が作成したものを全職員が確認し、手直しをして、最終的に管理者が仕上げている。職員は意見を言いやすい環境である。提案は法人の管理者会議で検討される。利用者が安全に過ごせるために考えた案が通り、物品購入に至った例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の資格や職務、勤務実績での給与水準で、代表者は、労働時間ややりがいなど各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに一年間の研修計画を立て、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を全員の職員が受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設が7施設あり、管理者、職員の研修や行事等で交流する機会があり、サービスの質の向上に勤めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、情報収集や事前調査等で本人から話を傾聴し、状態を把握し信頼関係を築けるように勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等には事前に見学に来てもらい、要望等や不安に思っていることに答え、安心できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ることや遣りたいことを、一緒に生活する中で見つけて実践している。日々のコミュニケーション、傾聴などで信頼関係を築く努力をしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の参加をお願いしている。いつでも立ち寄ってもらえる関係は築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用していた、床屋に現在も通っている利用者もいる。馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。	普段から利用者にとっての青春時代の曲をかけて歌ったりして昔を懐かんでいる。利用者は事業所へ入所してから、親戚や友人が訪れる回数が増えるようになった。同じ趣味の仲間が訪れて話が弾んだり、以前から通っていた美容院へ送迎サービス付きで出かけたりしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように心配りを怠らず、傾聴や会話をして支える支援に努めている。部屋にこもることがないように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、必要な時は相談に応じ、これまでの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状態や希望に合わせケアプランを作成している。日常行っていた、仏壇に水を上げる等ホームに入所しても出来る工夫や援助をしている。	利用者へ寄り添い傾聴している。話せない方へは筆談での会話などで意思疎通を行っている。ソファの隣に職員が座って話している際や、入浴時で1対1になった時には、利用者の本音や思いを多く聞くことができる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に今まで使っていた馴染みの茶碗や湯飲み・衣類や家具等を持って来てもらい、生活環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態に合わせ、本人の出来る部分を使うように支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直しには、本人や家族の要望を聴き、介護職員を交え担当者会議を開催する。そこで援助内容の検討を行い、本人らしい暮らしができるよう話し合いをする。また、3ヶ月1回は、担当職員がモニタリングを行い、現状に即した介護計画を検討している。	6か月に1回のケアプランの見直しと、3か月に1回、担当職員がモニタリングを行っている。1か月に1回のカンファレンスでは毎回全利用者について話し合い、些細なことでも、利用者が過ごしやすくなるよう意見を出し合っている。まずは実行してみる姿勢で取り組んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は、日中と夜間でペンの色を変え分かりやすく自筆で記録している。一日3回の申し送りがあり、職員全員が情報を共有できる体制を整えている。月1回ケアカンファレンスを開催して援助の見直しをしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の近くに、森岳温泉の足湯があり、無料で入ることができる。地域包括支援センターの職員とも良い関係を築き情報を頂いている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通院した病院に、入所後も引き続き通院を行い、本人や家族の希望を大切にしている。職員が付き添い受診、医療機関とは適切な関係を築いている。	訪問看護からの健康チェックを月に2回受けている。病院は、利用者の以前からのかかりつけ医を受診している。家族が付き添う時もあるが、それ以外は遠方の病院でも職員が付き添っている。受診結果に変化があれば家族へ電話連絡している。薬局からは薬の配達をしてもらっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には、日常の健康管理について気づいた点を相談しアドバイスをもらい、適切な医療が出来るように支援してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院関係者と連絡を密に取り、面会に行った際は、本人の病状の把握に勤め、安心して治療出来るよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合、終末期の対応について書面で説明をしている。重度化した場合や終末期には、早い段階から話し合い関係者と共に支援に取り組んでいきたい。	昨年、重度化や終末期についての研修を行っている。入居時に重度化した場合のホームの方針を説明し、同意を得ている。カンファレンス時は医師からの指示があれば実行するよう、情報共有している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルは完備されており、いつでも対応できる体制はできている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応は会議等で周知行っている。マニュアルも完備されている。火災時の避難訓練等は年2回消防署立会いの元実施している。	夜間想定避難訓練を年2回実施している。消防の他、地域の方も参加している。消火訓練や職員の駆けつけ訓練も実施している。備蓄品はおよそ30分あり、賞味期限の確認は1か月に1回行っている。発電機は、いざという時に動くよう、月に1回動かして点検している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレや入浴の際は、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴での更衣等でもバスタオルで隠したり、羞恥心に配慮した対応や言葉かけに努めている。同じことを話す利用者へも否定はせず、言葉遣いに気を付けている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から、本人の思いや希望を引き出してはいる。おやつの中には飲み物で「何を飲みますか」と尋ね、自己決定をしてもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせ支援している。 食事や入浴もその人のペースで支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服装や髪型に整えられるよう支援をしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備を、利用者と職員一緒に行い、ホームで採れた野菜を使った時は話が弾み楽しみながら食事をしている。お盆を下げてくれる、テーブルを拭いてくれる利用者がある。出来る部分はお手伝いしてもらっている。	食材は配達されたものを使用している。卸業者から購入しているため、肉や魚など新鮮なものを使用することができる。行事食ではバイキングを行ったり、出かける際は沢山の種類を弁当に詰めて持っていくなど、利用者が楽しんで食べられるよう支援している。利用者は茶碗洗いやテーブルふき、食材では菊やもやしの根取り、豆もぎ、だまこ作りなど、出来ることや興味のあるものを行ってもらっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を毎食チェックし記録している。一日を通じて摂取量や水分量を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後行い、一人では出来ない利用者には付き添い介助を行っている。清潔に常に気を配っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、プライバシーに配慮した声が行い、失敗や不安のない排泄を支援し、清潔に過ごしてもらう。	排泄の自立に向けた支援の重要性をスタッフが理解し、排泄チェック表を基に声掛けをし、トイレで排泄してもらっている。紙おむつから布パンツに変更した利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方には、牛乳を毎日飲んでもらい、乳酸菌が入った飲み物を提供するなどしている。食事にも食物繊維の多い野菜を使った工夫や、デザート等はヨーグルを出すよう心がけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中にバイタル測定を行い、健康状態を確認した後に入浴支援をしている。入浴を楽しめるよう入浴剤を入れ工夫している。	毎回3種類の入浴剤から選んで使用している。入浴中は利用者から昔の話や思いを聞いたり、歌を歌ったりしている。更衣室も床暖があり、着替えの際も温かいまま着替えることができる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい人は、一人ひとりの自由にまかせ居室で休んでいる。安心して気持ちよく眠れるよう自宅で使用していた布団や枕を持ってきてもらっている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬ケースには、製品名と薬効について記載し、いつでも理解できるようにしている。服薬の際は、利用者の手に渡すか、口に入れて支援している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充実した生活ができるよう、できることはしてもらい、嗜好に合わせた飲食を提供をしている。畑の収穫や果樹のもぎ取りも楽しみの一つになっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の行きつけの床屋には、その日に出掛けることができ、床屋さんの協力で終わった後は、ホームまで送ってくれる。当ホームの運動会には、家族や地域の人々に協力して頂き、開催する事ができている。	3、4名ずつ天気の良い日は散歩に出かけている。歩くことが苦手な方でもドライブを好み、出かけることもある。鍋っこやつつじ狩り、運動会は全員で外出することができた。お盆正月は自宅へ帰ったりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時は、預かり金として保管しているお金を本人に渡し買い物をしてもらう事もある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や兄弟からの電話は、取り次ぎをしている。本人から電話をかけたいとの希望があれば支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、木をふんだんに使用している。壁紙の色は落ち着いた雰囲気になっている。廊下には天窓が2カ所設置され明かりを取り入れる工夫をしている。台所からホールが見渡せ、生活観を感じる作りとなっている。室内の温度も一定に保たれるよう整備されている。	気になる臭いは感じられない。窓も大きく日が入り、寒くなれば床暖も入る。入口の戸や押入れは昔風に作られた木でできている。居室毎に壁紙が異なり、壁紙による各居室の独自性を醸し出している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファやテーブルが配置されており、思い思いの場所でくつろぐ事ができる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた布団や枕を持参してもらい使用している。使い慣れたもので居心地のよく過ごせるようにしている。	花は庭から採ってきたものを飾ったりしている。廊下の壁には利用者が作った季節の装飾が貼ってある。消臭には特に気を使っているとのことで、匂いは全くない。廊下には天窓から明かりがさしている。歯磨きはホールからは見えないよう洗面所で行っている。利用者はソファでゆっくりテレビを見たり、思い思いの場所で過ごしている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂が分からない利用者には、場所の表示をして混乱のないようにしている。安全に自立した生活が送れるよう工夫をしている。		